

りゅう 笠ひろふみ 7期目始動!!



りゅう 笠が役員を務める超党派の議員連盟

- 日本フィリピン友好議員連盟 幹事長
- 衆議院日本モンゴル友好議員連盟 幹事長
- 日本・インドネシア友好議員連盟 幹事長代理
- 日華議員懇談会 幹事長代理
- 日本チベット国会議員連盟 副会長
- 北朝鮮による拉致議連 事務局長代理
- 人権外交を超党派で考える議員連盟 副会長
- ボーイスカウト振興国会議員連盟 事務局長
- スポーツ議員連盟 常任幹事
- 障害者スポーツ・パラリンピック推進議員連盟 幹事長代理
- エアロビク普及推進議員連盟 幹事長
- 活字文化議員連盟・学校図書館議員連盟 事務局長
- 夜間中等学義務教育拡充議員連盟 事務局長
- マンガ・アニメ・ゲームに関する議員連盟 事務局長
- 環境・省エネ住宅政策を推進する議員連盟 事務局長



りゅう 11月8日の毎日新聞朝刊に笠ひろふみが取り上げられました

風知草

特別編集委員 山田孝男

衆院選における野党共闘の不発と、安倍晋三元首相の影響力の低下は、一対の現象ではないか。

衆院神奈川9区で7回目の当選を決めた立憲民主党の笠浩史議員(56)に勝利の手柄を聞いた際、そんな感想が漏れた。

激戦をくり抜けた野党のベテランの観察は、今回の衆院選と、先行した自民党総裁選の意味を考える上で示唆に富む。

立憲は今回、共産党などと候補者を一本化し、全国289小選挙区中、57区を制した。当選した57人のうち、野党共闘を拒み、共産党候補と対決して勝ち残ったのは3人だけ。笠はその中の1人である。

旧民主党で幹事長代理などを務めた。民進党、希望の党を経て2018年から無所属。この夏、「9年間の安倍・菅政治の総括選挙に臨み、小選挙区で勝ちぬくには、どっちつかずの無所属よりも野党第一党の方が有利と考えて」9月から立憲に加わった。

△立・共連携という立憲執行部の選挙戦略に背を向ける理由について、笠はこう言っている。

「自衛隊、日米同盟、天皇の3点で共産党とは相いれない(共産党綱領は将来の問題として自衛隊解消、日米安保条約廃棄、天皇制解消に言及)。野党は安倍政権と対決して安倍法制反対、森友・加計・サクラ疑惑解明に力を入れてきたけれど、岸田政権になった以上、戦い方をリセットすればいい。岸田さんが改憲をゴリ押しするとは思えない」

立憲の議席は選挙前の110から96に減った。世論調査で数十議席増が見込まれていたのに、単に14減ったという以上に惨敗感が出た。

ないのに、野党は『安倍垂流政権』と割り切り、引き続き『安倍1強政治許すまじ』という感覚から抜け出せないんですよ」

安倍元首相の力が衰えたかどうかは微妙な問題である。選挙後もなお最大派閥である細田派(87人)への影響力を保ち、岸田も気を使う。半面、安倍はもはや首相ではない。去る者は日々に疎し。今回の選挙、安倍は山口4区で、毎回10万以上取っていた票を8万まで減らしている。

立憲の議席は選挙前の110から96に減った。世論調査で数十議席増が見込まれていたのに、単に14減ったという以上に惨敗感が出た。

自公連立政権のスタートから今年で22年(途中3年余りは民主党政権)。有権者は、自公に失政があった時、自公に代わって政権を担いうる中道政党的出現を待望して久しい。

「安倍VS反安倍」に幕



題字・絵 五十嵐晃